

第1回 府中市総合計画重点プロジェクト（府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略）推進協議会会議録（要旨）

- 開催日時 令和7年6月25日（水）午前10時～正午
- 開催場所 府中市役所おもや4階 第2特別会議室
- 出席委員 5名（50音順）
榎本委員、小島委員、高橋委員、中島副会長、藤江会長
- 欠席委員 3名
伊浪委員、金子委員、山口委員
- 出席説明員等
石堂政策経営部行政改革担当参事兼行政経営課長、大木行政経営課長補佐、川村行政経営課主査、長瀬事務職員
（総務管理部）酒井新庁舎建設推進室長、小川新庁舎建設推進室長補佐
（防災危機管理本部）岩田危機管理監、飯田危機管理副監、篠崎防災担当副主幹、篠塚危機対策担当副主幹
（市民協働推進部）三浦地域コミュニティ課長、加藤地域コミュニティ課長補佐
（生活環境部）楠本リサイクルプラザ整備担当副参事
（福祉保健部）三浦地域福祉推進課長、土橋地域福祉推進課長補佐、梶田福祉保健部次長兼高齢者支援課長、伊藤高齢者支援課長補佐、山下介護保険課長、齋藤介護保険課長補佐、若山健康推進課長、大塚健康推進課長補佐
- 傍聴者 なし
- 議事日程
 - 1 開会
 - 2 審議事項
府中市総合計画重点プロジェクト（府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略）の進捗状況の評価について
（対象：プロジェクト1、12事務事業）
 - 3 その他

■会議録（要旨）

- 藤江会長 ただいまから、第1回府中市総合計画重点プロジェクト（府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略）推進協議会をはじめます。事務局から本日の委員の出席状況を報告してください。
- 事務局 出席状況を報告します。
（出席状況及び会議有効成立の報告）
- 藤江会長 次に、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。
- 事務局 本日、傍聴希望者はいません。
- 藤江会長 次に、事務局から本日の配布資料を説明してください。
- 事務局 資料は、机上に配布している3点となります。
（配布資料の確認）

審議事項

府中市総合計画重点プロジェクト（府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略）の進捗状況の評価について

- 藤江会長 まず、事務局から資料の説明をしてください。
- 事務局 配布資料1-1、1-2を用いて説明します。
（事務事業評価シートと外部評価シートについて説明）
- 藤江会長 事務局から資料に基づく説明がありました。
審議の進め方は、事務事業ごとに担当委員による評価の後、その他の委員から意見等があれば発言してもらい、最後に協議会としての評価を決定したいと思います。
本日は「プロジェクト1」の各事務事業について確認していきます。都合により、No.3とNo.4の事業の審議を先に行い、その後にNo.1に戻ります。
それでは、No.3「防災資材等整備事業」から審議を始めます。担当委員から評価をお願いします。

○小島委員 B評価。適切に対応していると考えています。

○高橋委員 B評価。計画に基づいて必要資材や備品等の整備を進めていると認識しました。担当課がA評価を付けたポイントを説明いただき、内容が十分わかればA評価とすることも合理的であると考えています。

○藤江会長 担当課から説明をお願いします。

○担当課（篠崎副主幹） 例年どおり計画的にローリングストック方式での備蓄品の入れ替えを行うとともに、令和8年度におきましては、避難所における主に要配慮者の方々の生活空間の確保として、避難所に備蓄することが望まれるダンボールベッドの拡充を計画しておりますのでA評価とさせていただきます。

○藤江会長 高橋委員、いかがでしょうか。

○高橋委員 ありがとうございます。資料からは読み取れませんでした。プラスアルファがあるということを理解しました。そこを含めて協議会としての評価を議論していきたい。

○藤江会長 その他の委員からいかがでしょうか。

○中島副会長 いまご説明いただいた内容をシートに加筆していただけると良いと思います。

○藤江会長 小島委員はいかがでしょう。

○小島委員 A評価として良いと思います。

○藤江会長 先ほどの説明にありました備品の拡充は数年サイクルで起こるのでしょうか。

○担当課（篠崎副主幹） 令和6年度には災害用トイレを各避難所に配布しましたので重点化・拡大と評価させていただき、令和7年度には例年どおりローリングストック方式の備蓄を継続させていただいたので現状のまま継続と評価しています。

○担当課（岩田管理監） 最近の備蓄の傾向としまして、ここ数年に全国で起きている災害でどのような課題があったかを踏まえて対応してい

ます。令和6年能登半島地震では、停電や水が流れずトイレが使えないという状況になりました。それに対して令和6年度に各避難所に2台ずつ自動ラップ式トイレを配備したことに加え、ことし8月には防災用モビリティトイレとしてトラックが納車されることになっています。防災危機管理本部としては、その時々災害における課題を見極めて翌年度以降の予算計上に反映しているところです。

○藤江会長 防災用品は様々なものがあるが、品物の選択は入札で行っているのですか。

○担当課（岩田管理監） 複数の会社で取り扱っているものは、基本的に入札を行って、特殊なものに関しましては随意契約という形で購入しています。

○藤江会長 ありがとうございます。協議会としての評価に移りたいと思います。担当課からの説明を聞くと、全国の災害から分かった新しい課題に対応するため工夫されながら取組を進めていることが分かりましたので、「A 重点化・拡大して継続」としても良いと考えています。委員の皆様よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.4「防災意識啓発事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○小島委員 B評価。質問等はありません。

○高橋委員 A評価。昨今、異常気象や自然災害などが発生しつつあることから、市民の防災意識をさらに高める工夫を引き続き進めたい。質問としては、防災ハンドブックや水害ハザードマップ、防災情報誌が文化センター等に置かれていますが、それによって意識向上が図られているかどうかはどのように把握・評価しているのでしょうか。

○藤江会長 担当課からお願いします。

○担当課（篠崎副主幹） 防災意識の向上が図れたかについては、把握しづらいところですが、市民防災講座や防災訓練の回数や参加人数の増加があったことから、一定の評価があったと考えています。

○藤江会長 その他の委員からいかがでしょうか。

○中島副会長 防災訓練や講座を実施した時に、アンケートなどで感想を聞いてもらい、シートや本協議会にフィードバックしていただけると良いと思いました。

○担当課（岩田管理監） 防災に関するテーマで出前講座を実施する際には、アンケートを取っています。アンケートでは、ほとんどの方が「参考になった」「今まで気付いてなかったことを改めて知った」と良い意見をいただいています。市民の防災意識の高揚が図られているか捉えることは難しいですが、考え方としては、自治会等が行う防災訓練には決まった方が参加されることが多くなりますが、ここに新しい方をどう取り入れるかということがあります。その考えを実際に行動に移す策といたしまして、子どもを対象とした防災イベントを実施して、一緒に来場する保護者の等にも周知の対象を拡大しながら防災対策の強化に努めているところです。

○藤江会長 東日本大震災の際には、子どもだけで状況を判断しなければならないこともある一方で、校長先生ですら対応を誤ってしまうようなこともあったと聞いています。いざという時には、大人より子どもの方がフットワークも軽く、知恵がある場合もあるので、いかに判断するかという力を付けていくことが重要であると思います。そのためには、やはり文化センターや地域において、自治会やコミュニティ協議会と住民を結び付けていくことが重要で、防災資材の提供や意識啓発を行いながら総合的に防災対策を行っていく必要があると思いますが、担当課としてはいかがでしょうか。

○担当課（飯田管理副監） 防災訓練につきましては、先ほどもありましたとおり、子育て世代の参加率が非常に低い状況にあり、子ども対象とした訓練を行うことで、そのような世代の方にも参加していただいています。また、総合防災訓練を年に1回実施する中で、小学校や中学校を会場に総合的な訓練として避難所開設の訓練を行い、地域の方や子どもたちにも参加していただいています。その訓練では、避難所がどのようなものなのか見てもらうほか、初期消火や地震や煙の体験、通報訓練などを実際に体験していただくなど、幅広い世代の方に参加していただけるように計画し、今年度も実施する予定です。

さらに、防災訓練になかなか馴染みのない皆様に対して、今年度はけやき並木通りを会場として、多くの市民に関心を持っていただけるような形で防災訓練を実施することを計画しておりまして、例年とは違った形で意識を高めていただけると考えています。

○**担当課（岩田管理監）** 会長から文化センターの話がありましたが、コミュニティ協議会の主たる目的は、地域のコミュニティを形成することであると考えています。防災に関しては、生活に密着して、いざという時の備えをしていかななくてはいけないということもあるため、コミュニティ協議会とは別な考えを持っていると捉えています。現在、全11か所ある文化センター圏域ごとに自主防災連絡会という組織を立ち上げているところで、7つのセンター圏域が既に組織化し、コミュニティ協議会とは別の防災事業を展開しています。自主防災連絡会の内容については、コミュニティ協議会にも共有させていただき、連携がとれるところがうまく絡み合っていけば、より良い地域の防災力が向上するものと捉えて、現在取組を進めているところです。

○**藤江会長** ありがとうございます。強じんな体制をつくるということで、2つが併存していくとくことでしょうか、外から見ると続けていけるのかとも思うところもあるので、いざという時に表に出て具体的に解決してくれる体制を引き続き追及していただければと思います。

協議会としての評価に移りたいと思います。担当委員の評価が分かれています、小島委員、今のやり取りを含めていかがでしょうか。

○**小島委員** A評価として異論ありません。

○**藤江会長** それでは協議会の評価としましては、ご説明いただいたとおり課題があるところ等の記載を増やしていただいたうえで、「A 重点化・拡大して継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○**藤江会長** それでは、No.1に戻ります。No.1「感染症対策事業」について、

○**高橋委員** B評価。理由についてはシートに記載したとおりです。

○**小島委員** B評価。理由についてはシートに記載したとおりです。

○藤江会長 新型コロナというめったに起きないことが起きたと考える部分はあるつつ、違うことが起きた場合に今回の対応がどの程度生かせるのか、というところが分かるように書いてもらいたいと考えています。

それでは評価に移りますが、担当委員2名ともB評価としていますので、「B 現状のまま継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.2「介護保険サービス事業者の感染症対策事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○高橋委員 C評価。今後の実績やニーズの変化に応じた対応を検討していくというように認識しています。

○小島委員 C評価。新たな感染症が増える中、有事に向けた対策は依然として重要であると思うからです。

○藤江会長 C評価ということですが、単純に縮小ということではなく、大事なところは質的な意味でこだわっていただき見直して継続してもらいたいと思います。

それでは評価に移りますが、担当委員2名ともC評価としていますので、「C 縮小・見直して継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.5「災害時医療体制等整備事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○高橋委員 B評価。引き続き災害発生時に備えた体制づくり等を推進いただきたい。また、体制が整備されていない項目等の拡充や検討を進めるうえでの課題があれば教えていただきたいです。

○小島委員 A評価。令和6年度の評価で明らかになった課題点は重要な事項であり、令和8年度において課題への検討と準備という対応を行っていくことが記載されているためです。

○藤江会長 担当課から説明をお願いします。

○担当課（大塚補佐） 高橋委員の質問についてですが、体制が整備で

きていない項目としては、通信手段の確立や薬事医療コーディネーターの役割、災害時の看護師の確保などを挙げさせていただいています。災害時の看護師の確保について具体的に申し上げますと、看護師には医師会・歯科医師会のような職能団体がいないため同様の確保が難しい状況です。現状では医師会との協定の中に包括的に看護師の確保を含んではいますが、現実的な体制の見直しが課題として捉えています。今年度東京都が潜在看護師の登録制度や災害時看護師派遣事業を開始したことから、その内容を確認しつつ、関係部署や関係団体との協議をしながら検討していきたいと考えています。

○藤江会長 ありがとうございます。高橋委員いかがでしょうか。

○高橋委員 通信手段については、課題が多くあろうかと思いで、東京都や関係団体等と協議をして行ってほしいと思いました。評価については、課題が山積する中、重要なものが入り込んでいるとしたらA評価としても良いのではないかと思う一方で、市のみでどこまでできるのかというところもあります。

○中島副会長 評価のあり方をどう考えれば良いのかというところで、指標だけ見れば、B評価のままで良いと考えていましたが、担当課の説明を聞くと様々な課題があって、取り組むべきことが多くあるようです。その取組について予算が計上できるならばA評価で、できないならばB評価とも思っています。この事業に限らず、他の事業もその評価にした根拠というところをもう少し書いてもらった方が良いと考えています。

○藤江会長 今後の評価の話もあるが、担当課からいかがでしょうか。

○担当課（大塚補佐） 本事務事業については、予算事業としては紐づくものが保健活動の1つだけとなっており、予算をかけて重点化するという類のものではないと考えています。評価としては、関係機関との協議に重きが置かれて力を入れていく必要があるため、現状のまま継続とさせていただきます。

○藤江会長 折衝をしながら取り組んでいくということですが、マンパワーを増やす必要はないのでしょうか。

○担当課（若山課長） マンパワーについては、当課のみならず、市全

体の課題として捉えるべきものだと考えています。折衝については、いわゆる三師会と行っていますが、基本的に管理職で対応していますので増員というものはないと考えていますが、課題については、健康推進課単一で取り組むものではなく、防災危機管理本部や、健康推進課が中心となって立ち上げた全庁的な保健師の連絡会で協議を進めるなど、各課連携の中でマンパワーの確保に取り組んでいるところです。

○藤江会長 ありがとうございます。評価に戻ります。内容的には、重点化・拡大して取り組むべき課題はあるもので、予算要求をダイレクト伴うこともあることから、本協議会としては、「B 現状のまま継続」としてまとめていきたいと考えていますがいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.6「文化センターの老朽化対策事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○小島委員 B評価。現状のまま継続してもらいたいと考えています。

○高橋委員 B評価。理由は記載のとおりです。

○藤江会長 この事業も進捗状況が進んできていますが、当初から経費はどのくらい増えているのでしょうか。

○担当課（三浦課長） 当初の工事費は、単に壊して建てるという考えのみで、防災設備や環境面に配慮した設備などを想定していないで作ったものでした。ここで四谷文化センターが改修工事に入る予定ですが、額としては、当初の倍くらいになっています。また、物価や人件費の高騰もあるので、今後他の文化センターも改修を行うには、根本的な見直しも必要ではないかと考えています。

○藤江会長 完成する時期に影響を与えるということはないのでしょうか。

○担当課（三浦課長） 1館あるうちの1館目がスタートするところですが、それがもし1年遅れるとしたら全館では10年以上遅れることになるため、当初スケジュールからはかなり遅れる可能性はあると考えています。1館ずつ進めていくことになるため、ズレは大きくなっていくだろうと捉えています。

○藤江会長 それでは評価に移りますが、担当委員2名ともB評価と
していますので、「B 現状のまま継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.7「コミュニティ圏域内地域交流促進事
業」について、担当委員から評価をお願いします。

○小島委員 C評価。令和6年度の実績が、目標及び前年度の実績より
も下がっているため、各圏域文化センターのコミュニティ協議会に委託
だけでよいのかと思いました。また、昭和52年度から継続しているた
め課題になっているのではないかと考えています。

○高橋委員 B評価。事業の質的向上と地域ニーズへの対応に注力する
方針というように認識したからです。質問として、参加者の意見収集や
成果の把握はどのように実施しているか教えてください。

○藤江会長 担当課から説明をお願いします。

○担当課（加藤補佐） まず、小島委員ご指摘の令和6年度の実績が前
年度より減少している理由についてですが、令和5年度に複数の事業と
して実施していた内容を、令和6年度に統合して1つの事業として実施
するなど、実施方法の見直しを行ったことによるものや、国政選挙が行
われたことによりやむを得ず中止した事業もありました。指標上は減少
してはいますが、事業の内容や規模としては、概ね令和5年度と同水準
で実施できたものと認識しています。またコミュニティ協議会につきま
しては、自治会やシニアクラブ、PTA、青年会など地域の団体から推
薦を受けた方々によって構成されている団体で、地域コミュニティの活
性化における協働のパートナーとして、代替を得がたい重要な存在と認
識していますので、本事業につきましては、引き続き地域のコミュニテ
ィ協議会との協働という形で進めてまいりたいと考えております。ま
た、新型コロナからは状況は回復しつつありますが、担い手の高齢化や
対象となる子どもの減少などもあるため、単にコロナ禍以前に戻すので
はなく、取り巻く環境の変化も踏まえつつより効果的で、持続可能な事
業となるよう創意工夫を重ねながら進めていきたいと考えているところ
です。

次に、高橋委員のニーズの把握についてですが、事業への参加者への

意見収集及び成果の把握については、現在策定中の第7次府中市総合計画後期基本計画の評価指標として新たに文化センターでの事業が地域と住民との交流のきっかけとなっていると思う市民の割合というものを設定する予定であることから、このたび、文化センターにおけるイベントに関するアンケートを各センターで実施しています。このアンケートは今後も継続的に実施していく予定であることから、こうしたアンケートを活用する中で、地域のニーズを把握する貴重な機会として活用していきたいと考えています。また個別の事業ごとにも参加者アンケートを検討して充実させていく予定ですので、そうした意見をもとに、事業の実施方法等を検討して、地域の皆様の声を反映したより効果的な地域コミュニティの活性化につながる事業となるよう努めていきたいと考えています。

○藤江会長 担当委員の評価が分かれています、引き続き文化センターの在りようとして、組織間の連携はとても大事な部分だと思しますので、新しい時代に合わせた要素も入ってくるかもしれませんが、そうしたことも強く意識していただきながら、「B 現状のまま継続」とするのはいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.8「介護予防推進センター事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○小島委員 B評価。適切に対応しているため、現状のまま継続してもらいたいです。

○高橋委員 B評価。理由は記載しているとおりですが、質問として、多摩地域の他市と比較して充実している事業とのことであるが、具体的にはどのような点が充実しているか教えてください。

○担当課（伊藤補佐） 介護予防推進センターは、市の介護予防の取組を推進する拠点施設ですが、介護予防に特化した同様の施設を有している自治体は、都内では、港区、豊島区、府中市の3自治体で、多摩地域では府中市のみです。また、国が定める通所による介護予防事業のうち短期集中の生活改善型の予防事業を実施しているのは、多摩26市の中でも限られた自治体になっていることから、他市と比較して充実してい

るものとして捉えております。

○藤江会長 高橋委員いかがでしょうか。

○高橋会長 ハード面、ソフト面ともに充実していることが良く分かりました。

○藤江会長 それでは評価に移りますが、担当委員2名ともB評価とされていますので、「B 現状のまま継続」としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○藤江会長 それでは、次にNo.9「地域福祉コーディネーター事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○高橋委員 A評価。理由は記載しているとおりでありますが、質問として、事業実施の成果についてはどのような形で把握されているか教えてください。また、困りごと相談会の相談内容は、個人情報観点もあるが、共有知として多くの市民に共有したり、地域福祉コーディネーター間で共有したりして、相談対応の品質や効率の向上を目指す取組はありますか。

○小島委員 A評価。困りごと相談会相談実績が増加していることから、一人ひとりに寄り添った支援を充実させるためにも、地域福祉コーディネーター増員も支え合いの仕組みづくりを支援するコーディネート機能の充実化も、いずれも重点化すべきだと思います。

○藤江会長 それでは、高橋委員の質問について担当課から説明をお願いします。

○担当課(土橋補佐) まず、1点目の成果についてですが、記載の相談の件数の他に、相談を実際に受けてから困りごとを解決していくために、支援機関や関係機関と連携して取り組んでいくという業務も行っていますが、これは個別支援ということで件数として捉えています。参考数値として、令和5年度の実人数は609人で延べ件数は9879件、令和6年度の実人数は847人で延べ件数は1万1302件となっています。

次に、2点目のコーディネーター間の共有については、まず共通のシステムに相談経過等を入力して、全コーディネーターで共有ができるよ

うになっています。また、共有する機会として、市内を東部・中部・西部とエリアを分けて、それぞれエリアごとに週に複数回ミーティングを実施して、事例や困難案件の共有を行い議事録も作成しています。それを所管課長、統括係長、他のエリアにも共有しています。

その他、月2回各エリアの担当コーディネーターや統括するコーディネーターを集めた会議を開催して、事業やイベント等の共有も行っています。

また、市民への共有については、具体的な中身はなかなか表現できないところもありますが、関係機関向けに作成している活動報告書を毎年作る中に3件程度、事例や解決方法を掲載して共有を図っています。

○藤江会長 高橋委員いかがでしょうか。

○高橋委員 ありがとうございます。ベストプラクティスの共有がうまくできていけばいいなと思っています。もう一つ質問ですが、民生委員の領域とは違うということでしょうか。

○担当課（土橋補佐） 民生委員も最初の相談を受け止めるということもあり、民生委員からコーディネーターに相談が流れてくるケースもあります。また、コーディネーターが助言した相談の中で、継続的な見守りが必要だというケースの際には、民生委員に連絡をして、本人の了解を得た上で継続して一緒に見守りをしていくというようなケースもあります。領域としては別ではありますが、基本的には同じように連携して見守っていくというところではあります。

○藤江会長 大変な仕事をされている方たちの役割分担って、私たちも正確に把握しきれてない部分もあると思うので、情報発信をしていただいたり、このように教えていただいたりすると、「こういう仕事もあるんだ」と若い人も気付いてやりがいのある仕事として受け止めてくれる可能性もあると思います。

それでは評価に移りますが、担当委員2名ともA評価としていますので、「A 重点化・拡大して継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.10「地域包括支援センター事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○小島委員 B評価。相談受付件数の減少は、事業の成果が出ている証として、むしろよいことだと考えています。また、地域の関係機関との連携の深化が重要になると思います。

○高橋委員 B評価。理由は記載のとおりです。指標については、計画値に対して例年アンダー気味ですが、小島委員のコメントを聞いて確かにそこは事業の成果が出ているからだと考えられる一方で、相談体制の更なる充実が必要としているという点から、現状の体制が不十分であるから相談を受けきれていないということもあるかなと思いましたので、その辺りについて補足して説明いただけたらと思います。

○藤江会長 それでは、高橋委員の質問について担当課から説明をお願いします。

○担当課（伊藤補佐） 初めに、計画値については今後高齢者数の増加が見込まれることから、それに合わせて相談件数も増加が見込まれるものとしています。その一方で、件数が低くなっている要因ですが、昨年度10月に地域包括支援センターの圏域変更を行ったことから、その影響もあったものと捉えています。実はこの指標における相談件数は延べ件数となっており、実人数については、令和5年度の1万204人から令和6年度の1万607人とわずかに増加している現状です。このような点から、相談解決までのやり取りのプロセスが抑えられてスムーズに対応できているとも考えています。ただ今後は、団塊世代が後期高齢者へ移行が進むこと、いわゆる団塊ジュニアの方々が段階的に65歳の高齢者を迎えることのほか、高齢者虐待の対応や一人暮らし高齢者の対応などの相談対応が苦慮して時間がかかる傾向もありますことから相談体制の強化については今後必須なものとして捉えています。

○高橋委員 ありがとうございます。体制面でいくと、例えば虐待では警察などの機関との連携も必要なのかなと思いますがいかがでしょうか。

○藤江会長 担当課からお願いします。

○担当課（伊藤補佐） 警察の出動が必要なケースについては、現状連携が取れていて、一緒に出向いて状況などを確認いただきながら、対応を進めていきます。

○藤江会長 それでは評価に移りますが、担当委員2名ともB評価とじていますので、「B 現状のまま継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、次にNo.1 1「市庁舎建設事業の着実な遂行」について、担当委員から評価をお願いします。

○高橋委員 B評価。理由は記載のとおりです。

○中島副会長 B評価。適切に対応しているため、現状のまま継続していただきたいと思います。

○藤江会長 予定の期日までの完成に向けて順調に進んでいるようで、また、担当委員2名ともB評価とじていますので、「B 現状のまま継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長 それでは、最後にNo.1 2「リサイクルプラザ管理運営事業」について、担当委員から評価をお願いします。

○中島副会長 B評価。令和8年度の位置付けについて、C評価となる理由が記載からは読み取れなかったもので、まず説明をお願いしたいと思います。

○高橋委員 C評価。新施設整備の進捗率について入札が不調に終わってしまったなど色々あったと以前伺った記憶があり、計画がうまく進捗していないという点について見直しを適宜実施していただきたいという意味でC評価としています。

○藤江会長 それでは、担当課から説明をお願いします。

○担当課（楠本副参事） 2回入札不調となっていることもあり、シート
の記入や評価が難しい部分がありました。相手方の話を聞くとお金の問題のみではないことが分かっています。今まで検討していたDBO
（Design Build Operate）ではなく、施設自体の縮小や機械の取替など
様々な方法を横並びで検討していくため、ある程度時間がかかることからC評価と判断しています。

○中島副会長　いまお話しされた内容をこのシートに追記いただければ、C評価として良いと考えています。

○高橋委員　中間処理施設はなくてはならないものなので、なんとかうまくいけば良いと思っています。

事務局に相談ですが、Cを選択すると「縮小」という文言があるため、実は担当課は見直したいのにBを選択するということがあつたのではないのでしょうか。書き方をもう少し分けると、シャープに議論することができるのではないかと思います。

○藤江会長　担当課のお話を聞くと、色々と検討しながら予算を増やさないような形で、安定的に施設を稼働させるというところを主眼にして取り組まれていると思います。

協議会としての評価は、縮小という意味よりも、担当課が積極的に工夫して見直しに取り組んでいられると理解して、「C 縮小・見直して継続」としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○藤江会長　これで、本日予定されていた12の事務事業について審議が終わりました。

最後に、次第3の「その他」になりますが、委員の皆様から何かありますか。

○中島副会長　各課がつけた評価の理由は、質問して分かることが多いので、事前に説明してもらうのはどうでしょうか。

○事務局　担当課の評価と委員の評価が割れているもの、次年度の位置付けを変えるAやC評価というようなものについては、担当課より説明を行うこととしたいと思います。

○高橋委員　シートに各課がつけた評価の理由欄をテンプレートとして用意しておくことも大事だと思います。

○事務局　評価シートの作り方については、第7次府中市総合計画後期基本計画の進行管理部分の検討と併せて行っていきたいと考えています。

○藤江会長　その他の委員からいかがでしょうか。

○榎本委員 審議の時間が足りないなと思っています。福祉に携わっているので、意見を言いたいところもありました。時間をもっと取って深い議論ができた方が良いでしょう。

○藤江会長 会議としては2時間の枠なのでしょうがないですが、福祉や防災、地域コミュニティは関係者も多岐にわたるので、独自の場を設けて議論を重ねるくらいの内容だと思っているところはあります。

その他として事務局からは何かありますか。

○事務局 事務局から2点連絡します。

①次回の開催日について（7月4日（金）午後3時から）

②次回審議する事業（プロジェクト2の9事業）

○藤江会長 本日はこれで散会とします。